****
隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 315 号
－環境・農業・食べ物など情報の交流誌－
2011.07.21（木）発行 山崎農業研究所＆編集同人
＜キーワード＞
環境・農業・健康・食べ物などの情報提供、高齢者と若者、農村と都市の
交流ミニコミ誌。山崎農業研究所＆『電子耕』編集同人が編集・発行。
http://www.yamazaki-i.org
**********発行部数 1190 部**********

【山崎農業研究所総会・総会記念シンポジウムのご案内】

◎日時：2011 年 7 月 23 日（土）13：00～17：30

◎場所：NTC インターナショナル（株）5Ｆ会議室

東京都新宿区四谷 3－5 不動産会館ビル 5Ｆ

東京メトロ丸の内線四谷三丁目駅下車

A3 出口より四谷方面へ 50m

コンビニ「サンクス」隣

◎次第

1、総会：13：00～13：30

2、シンポジウム「東日本大震災と農業・農村」：13：30～17：30

1）農地、農業施設被害とその対策」

山崎農業研究所　幹事　渡辺　博

2)「福島－希望への道筋を探りながら」

「大地を守る会」　農産グループ長　戎谷徹也

3)「風評被害（東海ＪＣＯ～フクシマ）を乗り越える経営力を求めて」

農業生産法人てるぬまかついち商店（甘藷・干しいも生産・加工）

代表　照沼勝浩（茨城・東海村）

4）全体討議

3、懇親会：17:30～

◎参加費：500 円（資料代等）、懇親会費：4000 円（予定）

※会員外の方の参加を歓迎いたします。

※7 月 22 日までに出席のご予定を事務局・益永までご連絡ください

TEL.03-3357-5916（益永）　FAX.03-3357-3660

e-Mail: y.masunaga@ntc-c.co.jp

【NEWS】

辻信一さん（文化人類学者、ナマケモノ倶楽部世話人。明治学院大学教授）が

『自給再考―グローバリゼーションの次は何か』の書評を書いて下さいました。
グローバルの次は何？ ～卒業するゼミ生諸君へ
http://www.sloth.gr.jp/tsuji/library/column64.html

□ 目 次 □----------

＜訃報＞　本メルマガ創始者の原田勉氏が逝去されました
＜巻頭言＞　三陸海岸の暮らし、文化に想いはせて
――畠山重篤著『森は海の恋人』から　塩谷哲夫
＜お知らせ＞　山崎農業研究所所報『耕 No.125』発行されました
＜編集後記＞　ささくれだった心に潤いが戻ってくる
――池澤夏樹・坂本龍一・池上彰ほか
『脱原発社会を創る 30 人の提言』（コモンズ刊）

＜訃報＞　本メルマガ創始者の原田勉氏が逝去されました

読者の皆様に悲しいお知らせをしなくてはなりません。
本メルマガの創始者である原田勉氏が 7 月 20 日逝去されました。
享年 86 歳。ジャーナリストとして半世紀以上にわたり活動された
原田氏に対し心から哀悼の意を表します。

＜巻頭言＞　三陸海岸の暮らし、文化に想いはせて
――畠山重篤著『森は海の恋人』から

今回の東日本大震災・大津波が三陸沿岸部にもたらした惨害、そしてそこからの復興を思ったとき、すぐに頭に浮かんだのが畠山重篤著『森は海の恋人』（北斗出版、1994 年）である。

この本を手に取ったのは 10 年ほど前のことである。海の民の暮らしと、森の恵み、森の民の暮らしがいかに深く結びついているかを私はこの本を読んではじめて知った。森と海をつないでいるのも、そして山の民と海の民をつないでいるのも“川”であることが、リアス式海岸地帯に注ぐ川の流域に形成（成蹊）されたこの地域独特の文化圏の姿が、実に生き生きと描かれている。

◇◇◇◇◇◇

畠山たちは、戦後の国による広葉樹林の針葉樹化や流域上流のダム建設などによって、森から海への植物プランクトンや鉄分などの栄養塩類の供給が減少し、海がやせてきたことに気づく（北大の松永勝彦教授＊との交友があった）。危機感を募らせた畠山は、仲間の牡蠣士たちと「牡蠣の森を慕う会」を結成し、1989 年、室根山を望む水源の森に大漁旗をはためかせながら広葉樹の植林を開始した。
＊松永勝彦，森が消えれば海も死ぬ - 陸と海を結ぶ生態学，講談社，1993.

「森と海、それは大古の昔から生命を育む源である。清らかな川で二つが結ばれている限り、永遠に新しい生命を生み続けるだろう。」

この畠山らの強い想いは、このたびの地震・津波によって壊滅的な被害を受けた漁業、海の民の暮らしを再興させる原動力にもなると、私は思っている。三陸のリアス地帯（スペイン語の Ria は「深い入江」のこと。ガリシア地方に多い）は、森からの物的・人的支援を受けながら、必ずや昔の豊かな姿を取り戻し、豊かな海の幸・山の幸を与えてくれるようになるだろう。

◇◇◇◇◇◇

植林運動をすすめる畠山は「新月ダム」建設計画（1988 年）にも向き合うようになる。畠山は、気仙沼湾に注ぐ大川を塞き止め、地域社会を破壊するこの「新月ダム」計画に対して、「未来に大きな負の遺産を残すことになる」、「いかにしてダムを造るかを考えるより、ダムを造らないで暮らせる生き方を模索すべきではないか」と、ダム建設反対行動に立ち上がった。

“闘うという姿勢　何れかのわが細胞と符号してゆく”

この歌は、そのときの彼の心に響いたという、気仙沼在住の歌人熊谷龍子の歌である。畠山にとって熊谷の存在は大きく、「森は海の恋人」というあの有名なキャッチフレーズも、熊谷の歌った“森は海を海は森を恋いながら悠久よりの愛紡ぎゆく”から生まれた。

ダム建設は 2001 年に中止されたが、今、私たちは、畠山がダムに対峙して考えたように、原発について、「造らないで暮らせる生き方」を模索すべきではないかと思う。

塩谷哲夫
山崎農業研究所幹事・東京農工大学名誉教授
yamazaki@yamazaki-i.org

＜お知らせ＞　山崎農業研究所所報『耕 No.125』発行されました

山崎農業研究所所報『耕 No.125』が発行されました。
今号では、東日本大震災を特集しています。
研究所ホームページから、目次を見ることと、記事の一部のダウンロード（無料）ができます。また、ご希望の方には雑誌を頒布（有料：1,000 円）いたします。

http://www.yamazaki-i.org

目次（抜粋）
《土と太陽と》（巻頭言）
東日本大震災と農業・農村復興……安富六郎
〔特集〕どう向き合うか 東日本大震災
・被災地を歩いて―災害の被害者から復興の当事者へ……小泉浩郎
・東日本大震災による農地と農業インフラの被災状況……渡邊 博
・土壌の放射能汚染をどう考えるか
　―現場での対応を中心に……編集部・森敏
・エネルギーは社会の根本問題……関 曠野
・震災から森と住まいの文化を考える……大内正伸
・大震災と住民自治……鳥越皓之
・「持続型地域」建設ビジョンをどう描くか……千賀裕太郎
・引き受けるものと選択するもの……宇根 豊

＜編集後記＞　ささくれだった心に潤いが戻ってくる
――池澤夏樹・坂本龍一・池上彰ほか
『脱原発社会を創る 30 人の提言』（コモンズ刊）

3.11 後、イライラとすることが多くなった。とりわけ原発事故については、東電・政府による情報がきわめてわかりにくいだけでなく、訂正につぐ訂正。そ

のうえ事態への対応もここまで後手後手になればイライラするなというほうがおかしいだろう。

だが本書を読み進めていくと、そうしたイライラがスッとおさまってくる。それはまず、3.11 後の“マスト”であるはずの「脱原発社会」を構想するうえでの的確な情報が得られることによる。

環境活動家の田中優氏は「使えば使うほど高くなる電気料金体系を企業にも導入し、ピーク時の消費を減らす。それだけで原発はいらなくなる」といい、環境エネルギー研究所の飯田哲也氏は「『節電発電所』の威力」を説いたうえで、自然エネルギー利用の世界の趨勢からは「2050 年までには化石燃料も全廃し、節電発電所で 50%、自然エネルギーで 50%」は可能だと明言する。

本書の魅力のもうひとつは、著者の多くが経済成長を最優先させる現代社会からの脱却までも射程に入れていることによる。

作家の池澤夏樹氏は「『昔、原発というものがあった』と笑って言える時代のほうへ舵を向けよう」といい、京都大学の小出裕章氏は「小欲知足」の道をという。「自然に対する畏敬の念を取り戻し、健康で当たり前の日常」をという有機農業者・詩人の星寛治氏の願いは多くの人々にとって共感できるものだろう。

“脱原発社会”から“脱成長社会”へという、リアリティに富んだ希望への道筋は読み手の心に潤いをもたらすにちがいない。

池澤夏樹・坂本龍一・池上彰ほか著
『脱原発社会を創る 30 人の提言』
http://www.commonsonline.co.jp/datugenpatu30.html
コモンズ刊　四六判／336 ページ　本体価格 1500 円＋税
2011 年 7 月
ISBN-10: 4861870844
ISBN-13: 978-4861870842

2011 年 07 月 21 日
山崎農業研究所会員・田口　均
yamazaki@yamazaki-i.org

山崎農業研究所編・発行／農山漁村文化協会発売
『自給再考――グローバリゼーションの次は何か』
（発売：2008/11　定価：1,575 円 ）
http://shop.ruralnet.or.jp/b_no=01_4540082955/
たくさんの書評・紹介記事をいただいています。感謝・感謝です。

◎戎谷徹也さん（大地を守る会）
ブログ：大地を守る会のエビちゃん日記　“あんしんはしんどい”
「自給率」の前に、「自給」の意味を
http://www.daichi.or.jp/blog/ebichan/2008/12/16/
◎吉田太郎さん（長野県農業大学校教授、執筆者）
キューバ有機農業ブログ 自給再考の本が出ました
http://pub.ne.jp/cubaorganic/?entry_id=1822182
◎関良基さん（拓殖大学政経学部）
ブログ：代替案　書評：『自給再考　－グローバリゼーションの次は何か』
http://blog.goo.ne.jp/reforestation/e/cb22650fa39384bdd22b61440fa81fa0
◎大内正伸さん（イラストレーター・ライター）
ブログ：神流アトリエ日記（3）「書評『自給再考』」
http://sun.ap.teacup.com/applet/tamarin/20081204/archive
◎ブログ：本に溺れたい グローバリゼーションの次は何か
http://renqing.cocolog-nifty.com/bookjunkie/2009/01/post-841e.html
◎森川辰夫さん
NPO 法人 農と人とくらし研究センター／資料情報
http://www.rircl.jp/shiryo.htm
◎日本農業新聞／書評
（2009/01/19 評者：日本農業新聞編集委員 山田優）
http://yamazaki-i.org/
（画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい）
◎小谷敏さん（大妻女子大学）
日本海新聞コラム「潮流」／「自給」の方へ（2009/01/31）
http://blog.goo.ne.jp/binbin1956/e/c895f6619b30ba7725e264b4daa75219
◎白崎一裕さん（（株）共に生きるために）
月刊とちぎ V ネットボランティア情報 vol.158／しみん文庫
http://yamazaki-i.org/

（画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい）
◎塩見直紀さん（半農半 X 研究所、執筆者）
ブログ：半農半Xという生き方～スローレボリューションでいこう！
立国集。
http://plaza.rakuten.co.jp/simpleandmission/diary/200812270000/

◎お願い「＜読者の声＞の投稿規定・メールの書き方」

1、件名（見出し）を必ず書いて下さい。「はじめまして」は省略して、言いたいことを具体的に。
2、氏名・ハンドルネームは、文末ではなく始めのほうに。
3、1 回 1 テーマ、10 行位に。
4、ホームページを持っている人は、文末に URL を。
5、JIS X0208 規格外の文字（機種依存文字）のチェックを。
http://www.chem.sci.osaka-u.ac.jp/networks/check/jisx0208.html
インターネットで使えない丸数字や半角カタカナ、括弧入り略号などは文字化けの原因です。

次回 316 号の締め切りは 08 月 01 日、発行は 08 月 04 日の予定です。

★『メールマガジンの楽しみ方』発売中

書名：岩波アクティブ新書 45『メールマガジンの楽しみ方』
著者：原田 勉 定価：735 円 発行日：2002 年 10 月 4 日
発行所：岩波書店 ISBN4-00-700045-X
まえがき・目次・著者紹介・注文方法はこちら
http://nazuna.com/tom/book.html

＜本誌記事の無断転載を禁じます＞
****
隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 315 号
最新号・バックナンバーの閲覧
http://archive.mag2.com/0000014872/index.html

http://nazuna.com/tom/denshico.html
購読申し込み／解除案内
http://www.yamazaki-i.org
2011.07.21（木）発行 山崎農業研究所＆編集同人
mailto:yamazaki@yamazaki-i.org
**********ここまで『電子耕』**********